

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	独語第一（再履）		
英文授業科目名			
開講年度	2007年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	湯川 敬弘		
居室	東1-607		

公開E-Mail	授業関連Webページ
t-yukawa@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題：独文法の基本である、名詞の格変化と動詞の認証変化の意味を徹底的に理解することを通じて、印欧語族文化のもつ形式論理的思考の意味を理解する。これと関連して、西洋的思考の1典型であるドイツ文化の理解を深め、欧米文化のもつ厳しさを知る。</p> <p>(b) 達成目標：ドイツ文法の難しさは格変化、人称変化に端的に現れる文法の形式論理性である。諸君がまずくのは、この形式性を意識しないで、日本語的にドイツ語を理解しようとするからである。ドイツ語を読むためにはまずこの形式性の持つ意味を理解し、これを身につけると、本当に文法に従って読むことができるようになり、ドイツ語の方が日本語よりも単純であることがよく分かる。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
ドイツ語、基本的英文法用語は理解できること。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書：『ドイツ語を読む文法』（第三書房） 参考書：昨年使ったドイツ語の教科書

電気通信大学 平成19年度シラバス

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

発音復習。ドイツ語の文の構造と動詞の位置の持つ意味。不定詞。名詞の格変化。人称変化。試験。

(b) 授業の進め方

教科書の問題文とプリントを使って文法に従って読むと言うことの意味を徹底的に訓練する。必ず全員何らかの形であたる。また適宜課題を出す。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

中間試験・期末試験および演習・宿題の結果を、次のように総合評価する。

成績評価 宿題・小試験 30%

期末試験 70%

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

ドイツ語文における、名詞の格変化・動詞の人称変化の意味を理解していること。

すべての課題が受理されていること。

基本的に毎回出席していることはそのための最低限の条件である。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。適宜相談に応じるが、メールなどで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

大学の授業は単位を取るためにあるものではありません。学問は自分がよく生きることが出来るようになるため、そして自分の世界を広げるためにあります。

【その他】